

学会ニュースNo.90 トピックス

- ・ 2007年度(第62回)総会・研究発表大会プログラム
- ・ 秋季例会(富山), 講演会ならびに臨地研究会開催のお知らせ(第1報)
- ・ 地理の言葉 ・ お知らせ

会 告

○2007年度(第62回)総会・研究発表プログラム

日 時:2007年6月2日(土)9:10より

会 場:立正大学熊谷校舎6号館(6101・6102 教室)

《口頭発表1》 9:10~10:50 *は発表者

発表時間:口頭発表は20分(質疑応答を含む)

9:10~9:30 原美登里*(立正大)・松尾忠直(立正大・院)・村田啓介(立正大・非):熊谷市中心部における都市構造と都市問題—GIS実習における成果と課題—

9:30~9:50 梶浦 岳(立正大・院):クルグズ共和国北部における雇用放牧—ジエティオグズ地区のヤク放牧を事例として

9:50~10:10 伊藤徹哉(立正大):ポーランドでの都市再生政策とその課題

10:10~10:30 元木理寿*(立正大・PD)・中島功雄・久米健太郎・渡邊泰徳(立正大):熊谷用水路の環境と生息する水生植物と二枚貝シジミの分布

10:30~10:50 小川滋之(千葉大・院):外秩父山地笠山におけるブナの分布と立地特性

《ポスター発表紹介》 10:50~11:10(各発表者約1分)

※掲示時間は9:20~16:00です。

保戸塚 諒(立正大・院):庄内地方における商業地域システムの変容

元木理寿(立正大・PD):中国北京市におけるごみ事情

田島遙名*・古川 恵・井川美奈・大芦香織・辻亜里沙(立正大・学)・片柳 勉(立正大):地域の宝としての広村堤防の現状と住民意識

島津 弘(立正大):フィジー・ヴィチレヴ島の地形と河川

深田康仁*・荒川知樹・池田誠・関口修平(立正大・学):熊谷市中心部における都市構造と都市問題—その1 仲町・宮町・本町におけるゴミ集積場の配置と課題—

久保田一馬*・小川洸介・進藤明信・保栖祐史(立正大・学):熊谷市中心部における都市構造と都市問題—その2 弥生・星川・鎌倉地区における古い民家の分布と形態—

小栗友則*・須江彬人・千野祐太・中川 寧(立正大・学):熊谷市中心部における都市構造と都市問題—その3 繁華街の諸問題とまちづくり条例の現状と課題—

濱中実典*・早乙女麻子・松田志乃(立正大・学):熊谷市中心部における都市構造と都市問題—その4 熊谷駅北口周辺のバリアフリー整備の現状と課題—

末広由紀子*(昭文社)・高橋由直(レオパレス21)・斉藤桃子(中丸コンピュータシステ

- ム)・鈴木敬子(日本生命):熊谷市中心部における都市構造と都市問題—その
5 筑波・銀座・末広地区における駐車場分布と形態—
関口修平*・橋本祐輔・荒川知樹・石川 明(立正大・学)・元木理寿(立正大・PD)・河
野 忠(日本文理大)・原美登里(立正大):大分県臼杵市・竹田市・由布市にお
ける名水の水質特性
河野 忠(日本文理大):六角井戸の研究② ~五角井戸の発見~
小松陽介(立正大):銚子半島の海岸沿いにみられるタフォニの形態と分布
鈴木厚志*(立正大)・高田明典(財・日本地図センター):デジタル空中写真と高精度
DEMIによる耕作放棄地の分析—伊豆市小下田地区の事例—
齊藤 彰*・中村由美・馬場茂彰・溝井麻予・室岡郁馬・柳澤裕治・山田有貴子(立正
大・学)・小松陽介(立正大):熊谷市のヒートアイランドに与える荒川の影響
小倉正哉(立正大・院):波長の異なる屈曲により合成された蛇行河川の定量的表現

《総会》 11:10~12:00 研究発表大会会場で行います。
昼休み 12:00~13:00

《会長講演》 13:00~14:00 北村嘉行(東洋大・元):工芸産業の地域
10分 休憩

《口頭発表2》 14:10~17:20

- 14:10~14:30 松尾 宏(日水コン):熊谷に残る利根川の旧堤中条堤の変貌と地域
の関わり
14:30~14:50 河野 忠(日本文理大):四国八十八ヶ所遍路道の名水と水質 ~名
水から見た遍路道の存在意義~
14:50~15:10 中牧 崇*(立正大・非)・多田統一(東京都立荒川商業高校定時
制)・高橋 健(和洋国府台女子中学校):地理教育研究委員会の活動から—地
理教育の現状と課題(その3)—
15:10~15:30 松尾忠直(立正大・院):生シイタケ市場流通の変容—東京中央卸売
市場と群馬県を事例として—
15:30~15:50 岡田 登(太田市役所):群馬県東毛地域におけるニガウリ集出荷範
囲の拡大
16:00~16:20 門村 浩(都立大・名):完新世「緑のサハラ」とは
*所属とタイトルを訂正いたします。門村先生をはじめ、会員の皆様
には大変ご迷惑をお掛けしました(広報委員会)。
16:20~16:40 戸田真夏(青山学院大・非):岩盤河床の侵食速度に関する計測例
16:40~17:00 立山 静*(カクヤス)・小松陽介(立正大):茨城県御前山地域におけ
る岩盤地すべり地形の特徴
17:00~17:20 岩山豪志*(国際航業)・小松陽介(立正大):日光市東沢における流
域面積と降雨流出特性の関係

《地理写真展示》

- 小長谷洋之(立正大・非):中国大連と瀋陽の都市交通
松尾 宏(日水コン):水害防備林および水防家屋 (人はいかにして洪水から身を
守ったか)
島津 弘(立正大):北朝鮮遠望

島津 弘(立正大): ブラジル・パラナ川の氾濫原の地形と植生

島津 弘(立正大): フィジーと”Love Island”

小松陽介(立正大): モンゴルの自然－地形とその形成－

長坂政信(立正大): フランスの世界遺産巡り

梶浦 岳(立正大・院): 中央アジア紀行 — ウズベキスタン・クルグズスタン・カザクスタン —

《懇親会》 17:45～19:15 学生食堂(ステラ)で行います。

○秋季例会(富山)・講演会・臨地研究会開催のお知らせ(第1報)

次の日程で第31回立正地理学会秋季例会(富山)ならびに第103回臨地研究会を富山国際大学地域研究交流センターとの共催で開催いたします。会員の多数のご参加を期待します。

秋季例会(富山)のご案内

1. 日 時: 2007年10月13日(土)13:00より
2. 場 所: 富山国際大学
3. 懇親会: 18:30～20:30

発表を希望する方は、題名、氏名、所属、パワーポイントの有無を明記し、ハガキにて立正地理学会集会委員会(〒360-0194熊谷市万吉1700立正大学地球環境科学部地理学教室)までご連絡下さい。メールで発表のお申し込みをされる場合は、件名を「立正地理学会秋季例会発表申し込み」として下さい。締め切りは8月25日(土)です。

臨地研究会のご案内

1. 日 時: 2007年10月14日(日)
2. コース: 富山駅北口(富山ライトレール)－東岩瀬－岩瀬の町並み・森家・富山港展望台－岩瀬浜(富山ライトレール)－富山駅北－富山駅前(地鉄市内線)－西町－池田屋安兵衛商店(昼食)－総曲輪・中央通り商店街－総曲輪にて解散
※テーマ・案内者(所属)、詳細は学会ニュース91号にて案内いたします。

○地理の言葉 「ロハス」

長坂 政信

ロハス(LOHAS)とは、Lifestyles of Health and Sustainability の頭文字をとったもので、1990年代後半にアメリカで作られた言葉であり、直訳すれば「健康的で持続可能な生活様式」という意味になる。これまで言われてきたエコロジーでは環境保護のために我慢した生活をするのが主眼に置かれてきたが、ロハスではより環境負荷の少ないものを選んで、自分自身も快適に過ごそうとする姿勢にある。近年、環境に配慮した商品を選ぶ消費者が増えてきたことを受けて、彼らが志向する生活様式をロハスと呼ぶようになった。

ロハスといわれているものには、気功・ヨガ・瞑想や漢方など西洋医学以外の治療法や体に良い食べ物を摂取することも含まれる。ケニアの自然保護活動家でノーベル平和賞受賞

者のワンガリ・マータイさんがものを大切に扱い、むやみに捨てることを戒めた「もったいない」という言葉はものへの尊敬と愛着の願いが込められており、かつての日本人の心情としてみられたものであるが、いつのまにか大量生産大量消費が美德とされてしまっている。また、地球環境の改善のために、3R(繰り返し使用するReuse、ゴミの発生を抑えるReduce、資源再生利用をするRecycle)に加え、新たな循環型社会の進行のためには自然の中で再生できる素材を使うというRenewable、修理して使うRepairを加えた5Rも提唱されている。

食生活からロハスをみると、我々はもっと日本の伝統的な食材を取り入れ、美味しく、体にも良い食事を楽しむことが必要である。近年の食生活の乱れ、食環境の悪化などを背景に、政府は2005年6月17日に食育基本法を公布、同年7月15日に施行した。これによれば、この法律の目的は「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育を総合的かつ計画的に推進すること」となっている。これを推進するため、①これまでのファストフード中心からスローフードへの転換が求められていること、②子供の肥満や糖尿病などの増加により成人病から生活習慣病へと表記の変更があり、若者への食生活への警鐘が求められていること、③化学肥料や農薬を使わない有機農産物に力点を置くと共に、地域生産・地域消費(地産地消)により新鮮・安全・安心した食材を使い、食糧自給率を高めてフードマイレージ(食料の輸入量と輸送距離を掛けた値、日本は世界1位)を減らすことなどが求められている。

○お知らせ(訂正)

学会ニュースNo.89の第102回臨地研究会(三宅島)報告の中で、「大路池は約2千年前の水蒸気爆発で形成された周囲2km、水深30mの火口湖である」と書かれています。しかし、文献によっては水深30mという記述のほか、水深10mと記述されている文献があるとの指摘を会員から受けましたので、ここに報告いたします。

編集後記 「立正地理学会は1935年頃より活動し、…」という一文(立正地理学会ホームページ)に示されているように、本学会はすでに70余年の歴史があります。また、学会誌『地域研究』は創刊号の発行から50年以上が経過しています。いずれにしても私がこの世に生を受けるずっと以前から脈々と続いているこの学会を、盛り上げ支えていくのは、会員の皆様、特に学生諸君です。まずは本ニュースでプログラムを見て、教員や諸先輩の研究発表を聞き、わからないことはどんどん質問をしてください。きっと楽しくなることでしょう。もちろん、他大学の会員の皆さんや、卒業生の皆さんの来場も心よりお待ちしております。

話は変わりますが、これまで研究ニュースを編集委員会で作成してきましたが、次号からは広報委員会で作成する予定です。学会ニュース内の新コーナーを作る計画や、記事の充実を考えていましたが、残念ながら思うように編集することができませんでした。引き続き会員の皆様の声援をお願いいたします。(編集委員・小松陽介)

立正地理学会ニュース No.90

2007年5月7日発行 編集者 立正地理学会編集委員会

発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内

電話 048-539-1660 振替 00130-8-13453